

海外農業開発

MONTHLY BULLETIN OVERSEAS AGRICULTURAL DEVELOPMENT NEWS

1988 7, 8

- ソ連 フィリピンの土地改革に関連し、農機具供与を提案
- 中国調査余滴

目

次

1988-7.8

海外の動き

シンガポール QAF社が香辛料製造業務の中国移転を計画	1
マレーシア 国内一の農業パークを今年末までに開園.....	2
マレーシア 国内の農業プロジェクトに 100%外資承認へ.....	2
マレーシア サバ州がシイタケ栽培を奨励.....	3
ソ連 フィリピンの土地改革に関連し、農機具供与を提案.....	4
88年WFP邦人職員採用要項	6
中国調査余滴.....	8



シンガポール QAF社が香辛料製造業務の中国移転を計画

シンガポール証取 (SES) 上場企業のQAF Ltd (QAFL) は、当地における香辛料の製造業務を中国の天津に移転する計画を進めている。

QAFLは、1958年にSpices of the Orient社から当地における香辛料製造業務を買収、これを基に1986年に 100%子会社のEthnic Foods Manufacturer (EFM) を設立した。EFMは海外市場の開発に積極的で、既にヨーロッパ、米国、オーストラリア市場にまで進出しているが、パンダン・ループにある同社の香辛料製造工場は1カ月当り 100トンのチリ・パウダー製造能力に対し、僅か15～20トン程度にとどまっている。

QAFLは、中国貿易業務の専門家タン・ケイチョーン氏の援助の下に同プロジェクトを進めているが、同氏は最近、ビジネス・タイムズ紙上で、QAFLが香辛料製造を中国に移転する理由を次のように説明している。

中国は、香辛料の原料となるドライ・チリ、ペッパー、ジンジャー、ガーリック、シナモン等の主要生産国であることから、同国における香辛料製造プロジェクトの潜在性は高い。また、QAFLは現在、中国産のドライ・チリを原料に、当地工場でチリ・パウダーを製造しているが、これを中国に移転すれば、製造コスト及び労働コストを大幅に削減できる。

タン氏によれば、①QAFLが中国で計画している香辛料製造工場は、中国で最も大規模なコンテナ埠頭新港に隣接しているため、製品の出荷作業が容易に行なえる。②同工場はいつでも操業開始できる状態にあるが、実際の稼働時期は来年になる。③同プロジェクトには塘沽当局と天津商工会議所連盟が参加している。

なお、QAFLは、現在までのところ既存パンダン・ループにある香辛料製

造工場と50人の従業員の処置に関しては明らかにしていない。

マレーシア 国内一の農業パークを今年末までに開園

今年末に同国の農業関連の技術やノウハウを研究開発する農業研究所と行楽地としての機能を兼ね備えたアグリカルチャル・パークがシャーアラムの北部にお目見えする。

同パークは、Bukit Cerakah Agricultural Park と呼ばれ、マレーシアにある同種のパークでは最大規模のもの。総面積856ヘクタールの用地で進められた第一期工事は1986年末に完了しているが、現在の工事が完了すれば農業関連技術研究所としての機能ばかりでなく、内外の観光客のアトラクションとしての機能も果たし、パーク内には情報センター、バード・コーナー、スパイス・ガーデン、ココア・ガーデン、ジャングル・オーキッド・ガーデン、乗馬練習場等の施設が誕生する。

7月中旬に同パークを視察したダト・スリ・サヌシ・ジュニド農相によれば、同パークは将来、アグリカルチャル・リソース・センターとして発展していくことが望まれ、そのため中央政府に対し、同パークの開発費500万Mドルへの補助を申請する方針という。

マレーシア 国内の農業プロジェクトに100%外資承認へ

同国の内閣投資委員会はこのほど、農業プロジェクトに対する外資 100%経営を認める方針を決めた。

ラフィダ商工相が7月21日にマラッカで開催された輸出奨励に関するワークショップで明らかにしたところによれば、同措置は国内市場への外資進出を奨励することを目的とするもので、農業以外にもホテル、観光関連プロジェクトにまで及んでいる。

農業関連の企業及びプロジェクトに対する優遇措置として外資 100%経営が認められるのは、操業開始後 5 年間で、下記の条件を義務づけている。

- (1) 最低、製品の 20% を輸出に向ける。
- (2) 地元のパートナーがいない場合には、事前に商工省との話し合いをする。
- (3) 農業関連総合プロジェクトの土地抵当権に関する問題は、事前に州政府から承認を受ける。

外資の出資率に関しては、従来通り製品の輸出量が当局の判断材料とされる。また、操業開始 5 年を経過した後は、政府の定めたガイドラインに基づき、外資の出資率を引き下げる。

以上の優遇措置は、1986年10月 1 日～1990年12月31日間に承認されたプロジェクトに適用されるが、小規模プロジェクトは対象にしないという。

マレーシア サバ州がシイタケ栽培を奨励

サバ州のバイリン・キティガン首席大臣は、去る 7 月 11 日、インター・リソーセス社のマッシュルーム農園の開園式に出席し、今後、州内のシイタケ栽培を全面的に支援し、シイタケの輸出拡大と雇用増に努める方針であることを明らかにした。

この農園はコタキナバル近郊の 16.4 ヘクタールの土地に開発されたもので、その開発会社であるインター・リソーセスは、シイタケ栽培プロジェクトのために台湾の栽培技術を取り入れている。同社の株主の 1 社であるタンブナン・コーポレーション・デベロプメント (Tambunan) は、シイタケ栽培に関心を持つ者に対し、必要な知識・技術を提供する準備があるという。

※ マレーシアの日本、台湾からのシイタケ輸入量は、1984年に 385 トン (2,190 万 M ドル)、1985年に 418 トン (2,530 万 M ドル)、1986年 485 トン (2,840 万 M ドル) と年々増加している。

ソ連 フィリピンの土地改革に関連し、農機具供与を提案

シンガポールのストレート・タイムス（7月17日付）が伝えるところによると、ソ連政府は現在フィリピン政府が推進している土地改革に必要とされる農機具を供与するかわりにフィリピンから砂糖、ココナッツオイルの供給を受ける提案をした。これは7月14日から13日までソ連を訪れていたフィリピン与党の12人の国会議員に対して明らかにされたもの。

※フィリピン政府は10カ年計画で約 760万余ヘクタールの土地（私有地385万ha、国有地 382万ha）を 300万戸以上の農民に分配するという農地改革に取り組んでいることもあって、外国及び国際機関からの農業関連資機材の受け入れに積極的である。この計画はフィリピンの農地改革関係省庁、土地銀行の代表者及び学識経験者で構成する作業部会（Inter-Agency Task Force）を中心に作成され、さらに議会の立法を経た「総合農地改革計画」（Comprehensive Agrarian Reform Program. 略称CARP）に基づいて実施されるものである。

同国とソ連の関係については、マルコス政権の末期にもイメルダが訪ソし、実現はしなかったものの造船所、石炭火力発電所の建設等に対する経済・技術協力の話が出ていた。

今回のソ連側の提案は、社会主義国がよく採用するバーター方式であり、しかも農機具供与の見返りにフィリピンの主力輸出産品であるココナッツオイル（87年のソ連向け輸出量は65,500トン）と市況の低迷にあえぐ砂糖をあげていることは、同国にとって市場開拓の面でもメリットがあるものといえよう。

ソ連側が訪ソ議員団に対し、上記の意向を明らかにした背景には、ソ連側のニーズにもましてフィリピンがかかえる国内外の諸問題があり、対ソアプ

ローチは、それらの解決策の一つとみられる。従来アメリカ一辺倒の政治、経済面の基盤構造は、2月政変の折にも生起されたように国内の中間層、インテリ層の批判にさらされており、アメリカのプレゼンスをある程度維持しながらも、それら構造に柔軟性をもたせる方向付けが、アキノ政権の命題の一つになっていることは間違いない。加えて近隣アジア諸国にみられる最近の対ソ接近動向とからめてフィリピンがソ連との関係改善に前向きの姿勢を示すのは時代の要請といえよう。マルコス時代に官房長官を務めたメルチョール氏が大物駐ソ大使としてモスクワに派遣されていることにも対ソ関係改善への熱意がうかがえる。

これらの状況を考慮すると、今回のソ連側の提案は実現の可能性を十分に秘めているとみられるので、今後の成りゆきを注目したい。

ジョホール河畔

岩田喜雄南方録

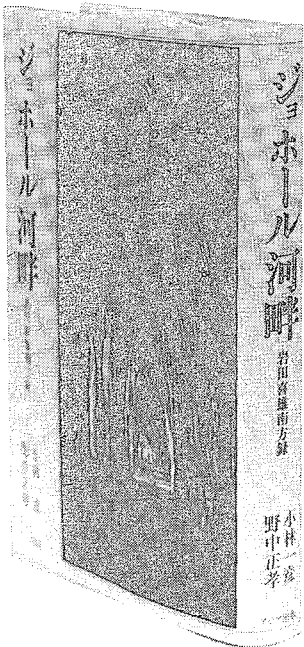
小林一彦・野中正孝著

四六判・カバー装／総440ページ 定価2100円

南方へ日本人が本格的に進出したのは明治末期、マレー半島のゴム植栽時代からである。その歴史は、まだあまり書かれていないが、東南アジアにおける日本人の歴史に他ならない。大正初年にジョホール河畔でゴム園を開拓した岩田喜雄青年は、まさに近代日本の南進史の渦中を生きた。その肖像を通して描く、日本人の図南の軌跡。

＜主な内容＞ ジョホール行 初めてのシンガポール／マレー半島のゴム樹林／日本人のジョホール進出／初めてのジャングル／タウケイの監督／日本からの労働移民 他
南洋園記 第一次大戦開戦とシンガポール／スコールとマラリア／マラリア対策／ハリマウ／象の襲来／ホリデイ・イン・シンガポール／インド人兵士の叛乱 他
カリリン群島行 魅力ある新領土／南洋群島の紹介／事業家皆川廣量略の略佐／開拓失敗の弁 他

ジョホールからスマトラへ 結婚／日東國の売却／スマトラへ／オランダ領インドへの日本資本の進出／メダンの日本人／シロトウ國とプロマンデ國 他
海南島記 昭和護謨株式会社の誕生／海南島占領／ケリラの襲撃／ゴムの密輸



発行所 アジア出版

〒一七〇東京都豊島区南大塚三二四七三

電話(〇三)九七一一七〇六 振替東京九一七八五九

発売所 星雲社

〒一一一東京都文京区小石川五一九一一五

電話(〇三)九四七一一〇二二
*書店店頭がない場合は、その書店に取寄・注文下さるか、右記に直接お問合せ下さい。

88年WFP邦人職員採用要項

WFP (World Food Programme 世界食糧計画、本部：ローマ) は、外務省と協力して日本人職員の採用試験を下記の要領で行なう。

1. 募集分野：コンピューター、輸送、予算、人事、広報等
2. 試験日時：10月17日（月）～21日（金）
3. 応募締切日：8月22日（月）
4. 応募資格：
 - (1)日本国籍を有し、英・仏・西・アラビア語のうち、最少1カ国語での職務遂行が可能であること。
 - (2)各専門分野における学士号以上の学位を有し、それぞれの分野での実務経験を有すること。

なお、職員の基準年齢幅及び学歴別必要経験年数は概ね次の通り。

等 級	基 準 年齢幅	学歴別必要経験年数		
		Ph. D.	M. A.	B. A.
P-1	30才まで	0	0	2
P-2	30才まで	0	2	4
P-3	31～35才	3	5	7
P-4	36～40才	6	8	10
P-5	41～50才	11	15	15

5. 募集ポスト 別表参照

※ 問い合わせ先

外務省国際連合局国連政策課国際機関人事センター

〒100 東京都千代田区霞ヶ関2-2-1

電話 03-580-3311 内線2040～1

別表

ポ ス ト 名	等級	所 属 部 局	勤務地
(A) 所定の人事手続きを経て、ただちに採用されるもの			
(1) Computer Operations Officer	P-2	Computer Operations Unit, Information Systems Services, Management Services Division (管理業務部)	ローマ
(2) Shipping Officer	P-3	Transport Branch, Resources Management Division (資源管理部)	"
(3) Budget Analyst	P-3	Financial Planning and Reporting Unit, Office of Management Service (管理業務室)	"
(4) Chief, Training and Staff Development Unit	P-4	Training and Staff Development Unit, Office of Personnel (人事室)	"
(5) Chief, User Support	P-4	User Support Unit, Information Systems Service, Office of Management Service (管理業務室)	"

(B) 近い将来の空席ポスト発生に備えて、取り敢えず、ロースター(適格者名簿)に登録するもの

(1) Policy Analyst	P-3	Policy Research and Data Analysis Branch, Office of Evaluation and Policy (評価政策室)	"
(2) Resources Management Officer	P-3	Resources and Purchases Branch, Resources Management Division (資源管理部)	"
(3) Logistics Officer	P-3	Logistics Branch Transport, Insurance and Logistics Service, Resources and Transport Division (資源・輸送部)	"
(4) Desk Officer	P-3	Operations Department (事業局)	"
(5) External Relations Officer	P-4	External Relations and General Affairs Branch, External Relations and General Service Division (渉外一般業務部)	"
(6) Programme Adviser (Monitoring and Evaluation)	P-4	Project Design Group, Office of Evaluation and Policy (評価・政策室)	"
(7) Senior Desk Officer	P-4	West and Central Africa Bureau, Operations Division (事業局)	"
(8) Senior Logistics Officer	P-4	Logistics Branch, Transport Service, Resources and Transport Division (資源輸送部)	"
(9) Senior Public Affairs Officer	P-4	Public Affairs and Information Branch, External Relations Division (渉外部)	"
(10) Senior programme Adviser (Human Resources)	P-5	Project Design Service, Office of Evaluation and Policy (評価対策部)	"

(C) 近い将来の空席ポスト発生に備えて、取り敢えず、ロースター(適格者名簿)に登録するもの

Project Officer	P-1 ~D-1	各国別事務所 (フィールド・ポスト)	各 国
-----------------	-------------	--------------------	-----

中国調査余滴

（株）海外農業開発協会 専門委員 松尾英俊

仕事で中国へ行きはじめてから久しい。現地での滞在延べ日数は合算2カ年ほどにもなるうか。この間に得られた体験、印象、感触等も随分と貯ったので、本稿ではそれらを雑感風にまとめてみた。筆者の見解がとんでもなく間違っただけでないことを祈り、また、間違っていたら深謝する次第である。

1 中国の農業

中国の3,000年以上の歴史は確かにその農業によって支えられてきた。しかもその根源は黄土地域の粟麦類と南部の水稲作である。水稲は不思議な作物で無肥料でも、低レベルの生産力を何年となく保ち続けられる作物である。反面生産力を上げるのは至難の術であるため、南中国の農民は長い間他人を十分に養うことができなかった。黄土という肥沃な土地での粟麦類栽培は、糞土、枯葉などの利用やかんがい水利などの発達によって、北の農民は多くの他人を養うことができるようになった。これが中国文化の発生の元であり、大帝国の創成をもたらしたといえよう。中国の現在に至るまでの社会、文化、政治などは、すべて黄土から得られた農産物の所産といえよう。中国の主たる歴史の舞台は中原であり、中原は黄土地域である。

筆者は長期にわたり熱帯アジアに駐在して、作物の肥料試験などを担当してきた。この間水稲がいかに安定した作物であるかを知らされた。例えば、タイ国の中央平原では長い間水稲の平均収量が、1トン（もみ）/ha弱程度であった。この平均収量が少しずつ増加してきたのは、稲の品種改良と施肥によることが大きい。タイ国では場所によっては強酸性の土壌や、極度にリン酸欠乏の土壌があるが、それぞれに適した稲の特殊な品種で、最

低量の収量をあげていた。もしも、昔中国の米作農民が、収量0.8トン/ha程度の水稲作を営んでいたとすると、彼の一家（約5人）が辛うじて喰べて行ける程度であったろう。すなわち、水田と経営上の困難から、平均反別は狭小なものであったと思えるので、なおさら農家は食うのにも難しかったと推定される。中国南部から他国を従えて、覇権を立てた人が出てこなかったのは恐らくこの理由によるものであろう。

黄土（Loess）は一般には風積土であるが、中国ではこの土壌の水積土も同等に扱っている。更に3,000年以上の耕作によって、本来の黄土の表層土壌と異ったものを、耕作黄土として区分している。黄土の分布は世界的にも広いが、中国では甘肅、陝西、山西、河北、河南、山東、安徽、江蘇、湖北の各省に分布している。一般に非常に深い土層であり、粘土質であるが通気性、通水性が高い。これらの地域は一般に降水量が少なく、年間500～800mm程度である。そこで当然かんがい施設が必要となる。一方、大黄河はしばしば氾濫するので、川を治めることが帝王の第一任務とされていて、このなかにはかんがいも組入れられていた。

さて雨が少ないことは土壌にとって、雨期（夏）に地下へ流れ去っていた養分が、乾期（冬）には地上へ毛管引力によって上昇し、結果として作物への養分供給は年々ほぼ変わ

らないこととなる。従って有機物の施用が行なわれたならば、かなりの作物生産量が確保されていたことであろう。筆者は黄土地域に隣接した所で黄棕壤土を見た。黄棕壤土とは黄土より多少降水量が多い地区の類似した土壌である。これは実に見事な断面であった。これならば生産力も高く、かつ長年に渡って減耗しないであろうと想像した。その時の調査では小麦作の収量が、簡単な土糞と穂肥の施用程度で、3.75～4.5トン/haと言われた。この値から考えて、古い時代の小麦では土糞だけの施用で、約1トン/ha程度は取っていたであろう。黄土は黄棕壤土より生産力が高いと言われるから、紀元200年当時農民は約1トン/haをあげていたのであろう。史記では約0.6～0.8トン/ha程度と示されているが、もう少し多いものと思えた。

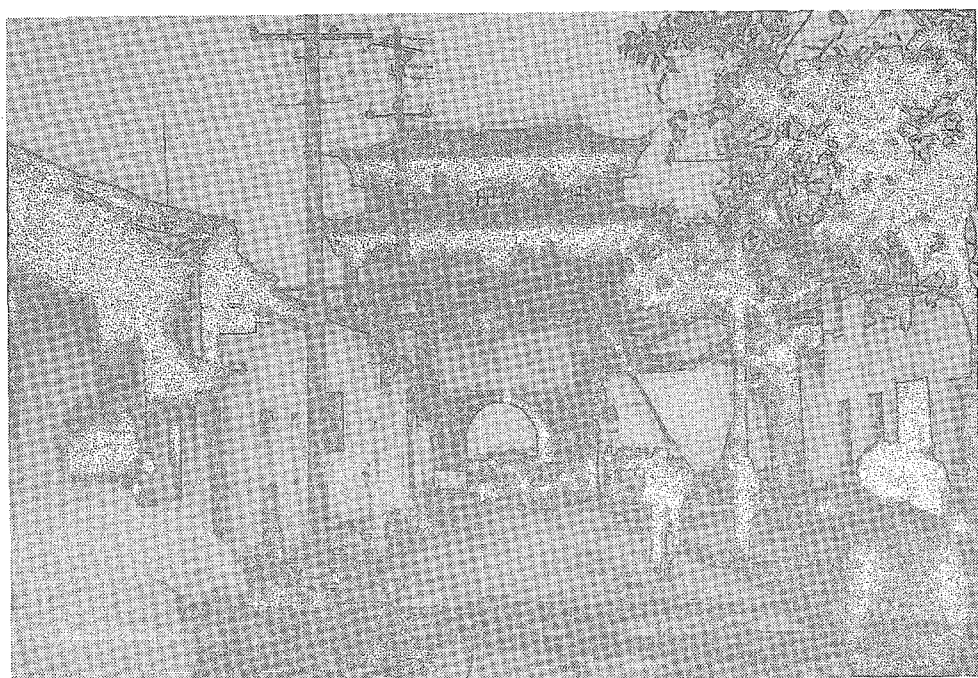
農工具に鉄が使用されたのは紀元前かなり前のことという。これによって畑の深耕が可能となり、農作業が楽になった上、生産量は増えたことであろう。このため、開墾面積も拡大して行き、生産量も増えたので人口も増加し、益々開墾に拍車がかかる。一部の地区では可能な限りの土地が耕地化されたはずだ。次の段階は他の土地への進出である。ただし、この進出は非常に緩かな速度で行なわれたことだろう。つまりは農本主義体制の部落、村、町などでは、領地拡大への意欲が常々内在していて、これが戦いの一因ともなっていたのである。

戦争は人、食糧、武器、家畜などの大量消耗を意味するが、目に見えない所では薪炭材料、建材、衣類、鉄鉋なども多量に必要とした。このうち木材関係では薪炭用、家屋用、船舶用、車両用などに必要で、莫大な量を消耗したことは明らかである。黄土平原の写真に森林が見当らないのは、恐らく昔伐採し尽したためであろう。他国の例では、スペイン全土はかつて美しい森林に被われていたが、ムーア人の支配からの独立戦と、その後の無

敵艦隊（アルマダ）の建造などで、すべてを伐採して今日の裸地になったという。このように戦争という大消耗戦で、中原の森林が消えて行き、その跡は耕地になったろうが、土壌侵蝕の被害も大きかったと思える。中国ではこのような大消耗戦が、200～300年ごとに繰返されたので、一部の地形さえ変貌したと想像される。

現在中原地域は人口密度が非常に高いため、黄土や黄棕壤土などの肥沃な土地も、農民1人当たり割当反別は極めて少なく、農家は懸命の努力で家計を保っている。小麦は公社解体後は豊作であるが、それ以前はアメリカから輸入していた。奥地で生産された食糧は輸送力が貧弱なため、海辺に多い大消費地にはなかなか届かなかった由で、そこらには輸入小麦が出回ったという。このように中国の農業を語るには、この広大な地域性を忘れては論ぜられない。これは当然昔も同様であり、兵隊は食糧を現地で調達するのが当然のことだったかもしれない。

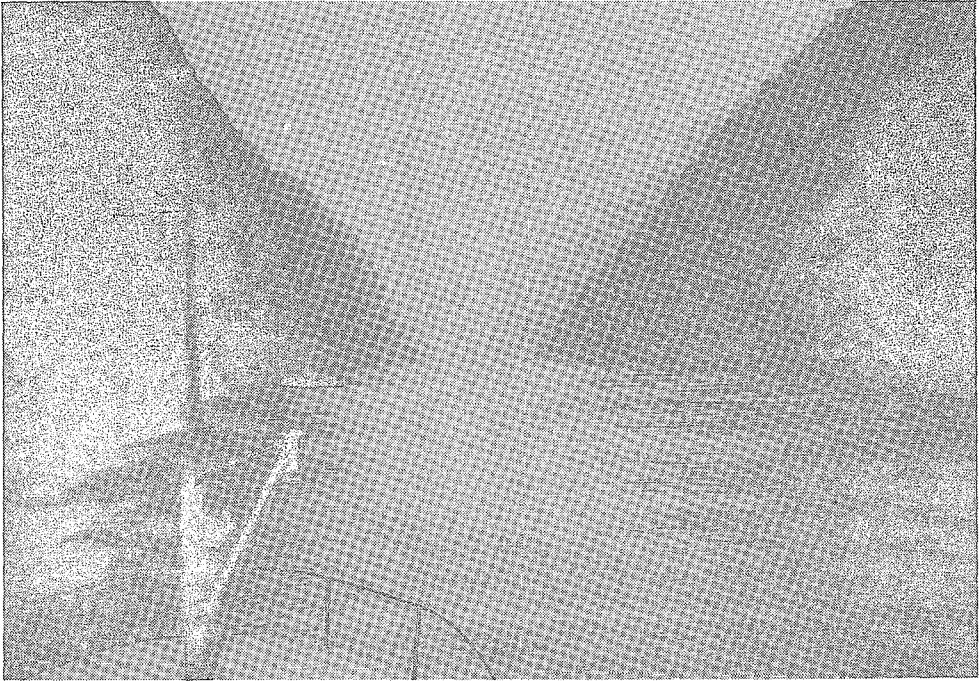
仮に10万人の軍勢が動くとした場合、その食糧は牛、人間のいずれかで運搬しなければならない。兵1人1カ月当り10kgの米または小麦を食べるとする。もっとも、この数字は過少見積りであるかもしれない。日本でも昔は人1人は米を年間1石（150kg）食べると言われていた。従って、10万人の兵のためには、1,000トンもの量が1カ月分である。兵隊が毎日長時間に涉って担ぐ量は、20～30kg/人程度と見るべきであろうし、牛車の場合はその10倍と見て約300kg/台程度であろう。牛の頭数は限られていたであろうから、ほとんどすべての食糧は人力による担送と考えられる。従って、手を入れて約3万人ほどが運搬専門に使われていただろう。この数字約3割は見積りが少ない位であったろう。要するに、10万人のうち3万人以上が非戦闘員である。かくして、名將は兵站を重要視していたし、敵中で糧食を取ることを考えざるをえな



三国志の中で有名な襄陽城門の跡（湖北省）



襄陽で会った中学校の教師



揚子江中流三峡の険



黄棕壤土調査中の筆者

くなるのである。このあたりは項羽と劉邦の戦いぶりを読むと、詳しくでてきて面白いものである。

筆者は昨秋湖北省のある都市で調査に従事した。ここも人口が稠密なため農家の平均所有農地が極めて狭く、戦前の日本の五反百姓の程度である。人民公社が解体した時に、農家は寸尺の地まで分割した。困ったのは農家に収穫物を日干させる場所までがなくなったこと。水稻、小麦、とうもろこし、豆、ごまなどの収穫物は、すべて最寄りの道路上でひろげて乾燥させ、同時に通行の人、車に踏ませることで脱穀までさせているのである。舗装道路の上は高さ30cm以上もの刈取直後の未乾燥の稲などに占領され、自転車は下りて押さねばならぬし、腰の低い自動車は水稻がまきついてトラブルである。この時期は公安も目をつぶるという。運チャンは怒るが農家は平気である。夜は物件が盗まれないように、その場に何人か泊りこんでいた。農業生産の向上の影の部分である。

中国の行政の要衝にある人々にとっては、絶えず人民を飢えさせないことが大きな問題である。筆者の体験でも相手方のリーダーが、常に我々の調査先での昼食に非常に気を配っていたことを、感謝と共に奇異に感じたのを思い出す。飢えた群衆ほど怖いものはない。これは歴史が証明している。中国の共産革命の成功の最大の要点は、人民が飢えなくなったことにある。しかし、現時点での新しい問題として、「飢えなくなはしたが、生活はあまり改善されていない」との不満があることのようなのだ。正に革命の仕上げの時にきていると思われる。農業生産責任請負制によって基本的には農民の意欲を引き出すことに成功したために、農業生産が上がったことは事実だが、生活向上については今一つだとの認識が広がっているといえよう。しかし、生活の向上には他の産業、特に工業の発展が必須条件であるから、もうしばらく待たねばならない

であろう。

中国の農業を語る時に、その土壌、気候、かんがい排水など重要な事項が多く、特に注目すべきはその人口圧力であろう。約11億の人が住む国であり、国土のうち人が住めるような土地は狭いので、隅から隅まで耕している。揚子江中流の有名な名勝三峡の險を見た時、瞿塘峡、巫峡、西陵峡のような石炭岩の急斜面にも農家があり、耕地があったのにびっくりした。途中の町々も結構住民が多い。有名な蜀の栈道もその北岸に刻まれていた。よくもこのような狭い仙道を劉備の兵隊が通ったものである。このような急斜面での農耕地を、コロンビアやネパールなどで見た。いずれも人が多くなって平地では食べられなくなったためである。中国では古い昔から人口の圧力が厳しかったことが示されていると思う。要するに息が苦しくなっても、何処へも行けない国のようなのである。

2 儒教と中国人の処生術

儒者を嫌いぬいた劉邦の国、漢帝国の後半は儒学による政治がとられ、以後歴代の王朝も同様に儒学支配の官僚によって統治された。孔子、孟子などの説く学説、理想が政治の基本となり、禹や堯舜などの古代の状況が理想的なものであるとして、復古主義を唱えたのである。また、新しい物の創造も、僅かな社会改革も、すべてが理想とは正反対の位置にあるとして抹殺された。恐らく孔子の時代は、親不幸者、強盗・強姦を行なう者、殺人者など無法者が、跋扈していてもならないような世の中であつたろう。古代は詳しくは判らないが、不道德者が少なかったようなので、聖人達は忠孝礼信義などを説いたと思われる。学説、論文にいささかの変更も許さないので、細かな点の解釈などが幅をきかせたという。

紀元前後までにあれほど世界的な発見、発明の事蹟があつたのに、それ以後注目すべ

きものがなくなったのは、儒教による禁断令の結果であろうか。例えば、銅から鉄の冶金に移り、戦いの主導が鉄製品となったのは、紀元前数百年から紀元後少々で、また、金、銀の細工が飛躍したのも同様な年代であったという。別の話になるが南米インカの金の装飾品の見事さの源泉は、中国からの流民が5～6世紀に來たためといわれている。但し、細工する方法は他に習ったが、その芸術的発想はインカそのものである。昔は陶器にしても形状、色など卓抜なものがあったのに、後代は巧緻さは増したが新しい創造が少ない。丁度わが国の鎖国時代のようなものである。徳川時代も新しいものの創造には厳しい目が光っていたという。

筆者は1981年に黒龍江省の三江平原農業開発調査事業に参加した。以後4カ年つづけて現地に赴いた。当初はまだ人民公社による農業の生産管理が行なわれていたが、82年には地域内の約半数の公社が解体して、いわゆる生産責任請負制をとることとなった。すなわち、生産物（または金銭）の一部を責任をもって政府に渡せば、残りはすべて農家の自由裁量にまかせることになったのである。しかも政府へ売り渡す量は軽少とあって、多く収穫するほど多くの残り量（利潤）が上ることとなった。この時点からの農家の変貌は誠に目を見張るものがあった。我々は人はかくも急変できるものかと驚いたものだ。

公社時代の農家は怠け者の代表のようであったが、一度に様変わりして昔の真面目で勤勉な中国人に戻り、夜昼なく働いていた。例えば、次のような各種の様変りが農民らの生活や態度などの上に見られた：

イ、公社時代（以前と書く）は朝遅く全員で耕作に出て、横一列に並んで作業を行なう。5分ばかり働いて5～10分雑談しながら立ったまま休む。この繰返しであった。公社解体以後（以後と書く）は個々の農家が、それ

ぞれの予定に従って、朝早くから夜遅くまで寸暇を惜んで働いていた。

ロ、以前の畑は除草が十分でないため、畝の列が判別し難かった。以後は請負った土地の面積を農家自身がつかむためにも、畝立ては正しい平行線を作り、除草は行き届いて見事な風景となっていた。

ハ、以前は公社の定める方式（共産党書記の案）による栽培方式が行なわれたので、作物の種類も数少なく限定されていた。以後は作物の種類が格段に増え、多彩であり、植付面積も各戸の考えによってバラバラであった。なかには請負耕地の大半を掘って池として、魚を飼って成果をあげていたものなどいた。

ニ、以前道路の保守管理は公社大隊などの責任となっていた。以後は特定個人または農家にその責任が移された。このため、雨が降って道が壊される危険があると判断した場合（多分に自己中心的判断であるが）、保守責任者によって遮断機が降ろされていた。結果的には雨中の移動は難かしくなったが、道路の損傷は以前より少なくなった。

ホ、筆者自身の体験では土壌調査の際の試坑（深さ1 m以上の坑）について、以前は「御上」の仕事だからと無償であった。以後はその圃場の持主の請求によって、若干金を支払うこととなったが、同行の中国人専門家は苦い顔をしていた。

中国の歴史は動乱、沈静から王朝創設へ、200～300年経ってから再び動乱、次の王朝への繰返しである。この間民衆は武力によって収奪され、厳しい法律と経済によって圧迫されるなど、数多くの苦難を繰返し受けて、雑草のように逞しい民衆の根性を養ってきたと思われる。その結果から生れた言葉に「面従腹背」がある。表面はハイハイと従っているが、腹のなかは全然反対のことを考え行なうことをいう。上記公社解体前後の農民の急変劇はこれを示している。また、里諺に「官

吏と兵隊は人間の屑だ」とあるが、これも民衆の経験から言わせたもので、官吏と兵隊がいかにも民衆から強奪していたかを物語っている。

中国本土から何らかの理由と方法で外国へ出た人々は、現在華僑と呼ばれて成功者も多い。本来中国人は努力型の民族なのであろう。いずれも異国で刻苦精励して財をなしている。圧力が少ない所ではその努力は稔るが、本土では上記のように余りにも圧力が厳しくて、英才型でも精励型で成功を収めることは容易ではない。儒教が身体の隅々にまで入っている人が一度官途につけば、貪官汚吏と毛嫌いされるまでになるのは、どのようなものの影響によるものであろうか。民衆圧迫の圧力の大部分が、このような汚吏によって引起されている。華僑にはこの圧力が少ないのであろう。ともあれ、歴史の大半はこのような賄賂を取る官吏の話で埋まり、それによって動乱が発生している。儒教そのものが民衆によって面従腹背の反応を示されたと考えられる。

民衆に浸透した儒教に基づく生活風習として家の概念があり、祖先崇拜と子孫を絶やさぬことなどが、人々の重要な順守事項となっている。子孫、しかも男子を残さねば祖先を祭る者が無くなるということから、近代まで妾を置いてまで男子を得ていた。現在人口政策として夫婦に子供1人が奨励されているが、もし娘が生れた場合はどうしたらよいのであろうか。噂では出生を公に届けでないことであるという。これも民衆の知恵であらうか。筆者もよく「内孫何人?」「外孫は?」と聞かれた。血統を断やさないことが、先祖への最大の孝行とされていたので、何人もの妾を置いても儒教的には良いことであった。従って貪官汚吏は妾を買う金と栄養源の肉を喰べる金とを理由に、大いに賄賂で取りこんだものである。

つい近年4人組が華やかであったころ、彼

らによって儒教的精神を破棄するために墓の破壊が実施されている。筆者は成都で初めてこれに気付いて愕然とした。この影響は計り知れないものがある。第1には先祖の所在の抹殺であり、第2には本人が祭りをすべき男子をつくらなくともよいこととなり、第3には諸々の他の先祖の諸霊の忘却である。唯物論からの当然の帰結かもしれないが暴挙であらう。世界中でもその国土に墓のない国は、多分中国だけではないだろうか。ことほど左様に儒教が4人組の敵であったのであろう。長い間培われた儒教的なものが少しずつなくなっていくことであろう。それとともに中国人の美德とされていたものも、姿を消して行くのではなからうか。ともあれ現在は過渡期であって、我々が現地において戸惑うことが多いのも、人々が時には新しい方法を、時には古いものをとるからであらう。

3 戦記・雑書などから

紀元 200年ほど以前の話で信用を置きにくいが、項羽は降伏した秦の兵隊20万人を坑（生埋め）にしたという。現在東京ドーム（後樂園）の入場者は、満員の場合約5万6000人ばかりという。項羽は東京ドームの入場者の3.5倍ほどの人達を、穴に入れて生きたまま殺したのである。この数は中国古来の「白髪三千丈」式の誇張があるとしても、今、次のような計算をしてみよう。一人の占める空間を 0.4 (横) $\times 0.3$ (奥行) $\times 1.7$ (身長) $= 0.204 \text{ m}^3$ と仮定する。この人達を 1 ha の広さの空間に隙間なく詰めたとすれば、約8万3,000人で填る勘定となる。従って、単純計算で坑された兵隊20万人ほどは、約2ha強の広さがあれば坑も可能となる。しかし、現実問題としては2ha以上の穴を掘るのは至難の技である。東京ドームは約1.5ha程度と思われるが、あのドーム内に約1.7mの厚さを考え、その上に呼吸困難とする程度の

40 x 20
40
20
800

土を盛るのである。

ブルドーザーもない時代に、項羽は何故にこのような方法をとったのであろうか？史記には食糧を保つためとあるが……。これを解く鍵は黄土にあると思う。最近テレビでよく見せられるが、黄土地域には垂直に近い壁が地隙や谷、穴居生活者の家などに見られる。この土壌の示す安息角は垂直に近いという特殊なものである。日本でも鹿児島県に分布するシラス土壌が、黄土に近いこのような性質をもっていて、豪雨時に壁が倒れるように崩れて被害を出している。このような特殊土壌の谷、地隙に降伏した兵卒を追入れ、両側の壁を崩したのであろう。大量殺人としては最もエネルギーのいらぬ方法である。項羽は同様な方法で何度か殺人を繰り返している。また紀元前 260年には秦が趙を長平で大いに破り、趙兵40万を坑殺したとある。始皇帝の焚書坑儒も、同様多数の学者を生埋めしたことを言っている。これらはすべて黄土なくしては考えられず、実行不可能であったろう。しかし、中代以降このようなことが記載されていないのは、やはり残酷なこととして排斥されたからであろう。土壌を学ぶ者として、黄土がこのような使われ方をされたのは悲しいことである。

戦記以外の面白い読みものとして、「聊斎志異」「西遊記」などがある。いずれも化け物の話である。聊斎志異は著者聊斎が異（化け物）を書くことである。奇想天外の話が多いので読み始めると止まらない。これだけの面白い話が田舎の片隅で、ヒソヒソと話され、受けつがれていたということは、中国人の感性の豊かさを示すものであろう。しかし同時に、筆者はこれらの話が何かの事実を隠しているのではないかと疑った。初めに考えたのは狐の存在である。古代は沢山数々の狐が山野にいたことであろうが、これらが妖術で美女に化けて人間の男と一緒にするな

どとは本気で信じ難い。また、亡霊の話も多く、美女の亡霊が淋しいからといって、若い男の所へ来たなども信じ難い。これらは明らかに中国内に入った異民族、または漢民族であっても何らかの理由で故郷を追われた人々と、現地の人々との交流の話ではなかったか。恐らく、これら異端の人々は村はずれか、墓地の近くに住みついて細々と暮らしていたのであろう。中国では現在でも「客家」（ハツカ）と呼ばれる流亡の民がいる。これらの人々は古い時代に故郷を追われ、各所に流れついているのである。厳しい村落組織構成の下で流亡の民が、容易には部落入りできなかったことは想像できる。その流亡の民に絶世の美女がいたとしても、正規には部落の人と婚姻関係には入れなかったであろうと思う。ここに狐や亡霊が登場して、悲恋ながら相思相愛のカップルが成立するのである。

一方、聊斎志異には見たこともない外国の話もかなりある。例えば、ある男が漂流してついた国では、最も容貌の醜い者が王であり、我々並の顔形ちに近づくに従って官位が下がっている。この話を想像して作りあげた人は、その脳裏に現職の官吏の姿があったのではあるまいか。ともかく、賄賂を取り放題の官吏がその頂点にいたことは確かである。民衆から見て最も醜い者がトップに坐っているという痛烈な皮肉である。

要約すれば、悪政に対する批判や現実の出来ごとを、表面的には喋られないために、パロディ化したり、化け物に転化したりして、民衆は留飲をいささかでも下げていたのである。江戸時代にもこのような風刺が数多くあったことを考えると、わが国の民衆にもまた反骨があったものと言えよう。筆者の願いとしては現在の中国の民衆が、どのような化け物物語を創作しているかが知りたいのである。

総合建設コンサルタント

日本工営株式会社

代表取締役社長 池田紀久男

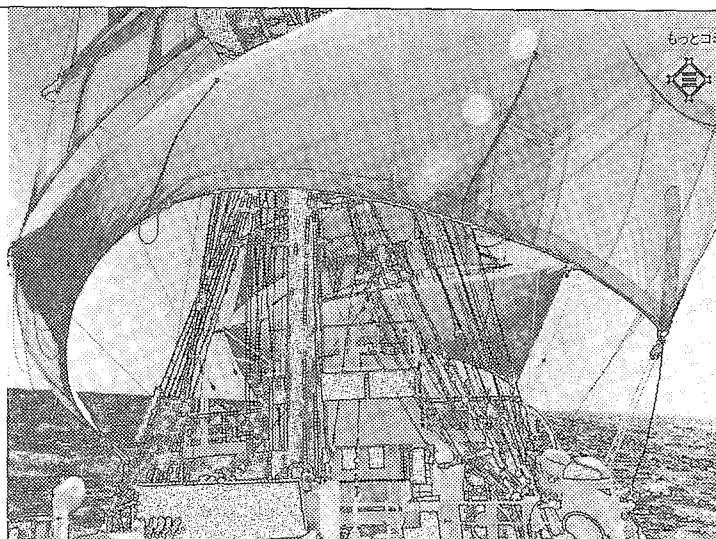
本社 〒102 東京都千代田区麹町5丁目4番地 電話03 (238) 8 2 1 5
別館 〒102 東京都千代田区麹町2丁目5番地 電話03 (238) 8 1 2 0
技術研究所 〒355 埼玉県東松山市小松原町11-1 電話0493 (23) 1 3 0 0
国内支店 札幌・仙台・大阪・福岡 営業所 北陸・名古屋・広島・沖縄
海外事務所 ソウル・ジャカルタ・カトマンズ・バンコック・マニラ・ナイロビほか

海外農業開発 第142号 1988. 8. 15

発行人 社団法人 海外農業開発協会 橋本栄一 編集人 小林一彦
〒107 東京都港区赤坂8-10-32 アジア会館
TEL(03)478-3508 FAX(03)401-6048

定価 200円 年間購読料 2,000円 送料別

印刷所 日本印刷(株)(833)6971



もっとコミュニケーション、世界の心へ。

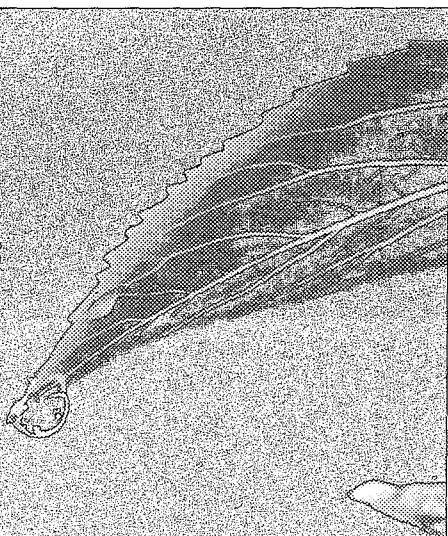
三井物産

時代を超え、国境を超えて 礎^{いし}のもの。

さまざまな人種。いろいろな言葉。気候風土も違えば、習慣にも隔りがある。そんな国々が多数集まった偉大なる寄り合い所帯、地球。

その地球を舞台に活動する私達商社マンの使命は、人種や国の大小、経済レベルの違いを超えて、そのひとつひとつの国々のニーズや価値観を理解して経済活動を手助けすることです。それが、信頼を確保し、繁栄を分かちあい、ともに地球の一員としての限らない未来を着実に築いていける途と考えています。

大きな夢を育てたい。



《日債銀》は、みなさまの有利な財産づくりのお役に立つワリシン・リッシンを発行しています。また、産業からご家庭まで安定した長期資金を供給することによって、明日のゆたかな社会づくりに貢献しています。

高利回りの1年貯蓄

ワリシン

高利回りの5年貯蓄

リッシン

日本債券信用銀行

本 店／東京都千代田区九段北1-13…☎102 263-1111
支店／札幌・仙台・東京・新宿・渋谷・横浜・金沢
名古屋・京都・大阪・梅田・広島・高松・福岡
ロンドン・ニューヨーク支店／駐在員事務所：ロサンゼルス・ペイロード・フランクフルト

海外農業開発

第 142 号

第 3 種郵便物認可 昭和63年8月15日発行

MONTHLY BULLETIN OVERSEAS AGRICULTURAL DEVELOPMENT NEWS